

平成 30 年 3 月 5 日

大阪経済記者クラブ各位

«同時資料提供»
大阪府政記者会
大阪市政記者クラブ

大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 文化課
大阪市 経済戦略局 文化部 文化課
公益財団法人 関西・大阪 2 1 世紀協会

平成 29 年度大阪文化祭賞受賞者の決定、贈呈式のご案内

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪 2 1 世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府内で上演された公演の中から優れた成果をあげたものに対して「大阪文化祭賞」を贈呈しており、今年で 54 回目の開催となります。

このたび、平成 29 年に大阪府内で開催された公演を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について審査をいたしました結果、各賞を決定いたしました。

つきましては、「平成 29 年度大阪文化祭賞」各賞受賞者への贈呈式を下記のとおり開催し、受賞者による受賞記念公演も実施いたします。

報道関係の皆様方には何かとご多端の恐れ縮ですが、当賞の趣旨に鑑み、広く告知・ご取材等のご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

1. 平成 29 年度大阪文化祭賞 贈呈式 開催概要

- (1) 日 時 平成 30 年 3 月 12 日 (月) 14 : 00 より
(13 : 30 受付開始、13 : 50 開場)
- (2) 会 場 リーガロイヤル NCB 2 階 淀の間
大阪市北区中之島 6 丁目 2 - 2 7 TEL/0 6 - 6 4 4 3 - 2 2 5 1
14 : 00 ・開式・あいさつ
14 : 15 ・賞の贈呈
14 : 40 ・受賞者記念公演
七代目笑福亭松喬様
・閉式
15 : 00 ・記念写真撮影

なお、贈呈式後に下記の通り交流会を開催いたします。

- 【交 流 会】 会 場 リーガロイヤル NCB 2 階 淀の間(贈呈式会場内)
15 : 05 ・交流会
16 : 00 ・終了予定

2. 平成29年度大阪文化祭賞 受賞者

大阪文化祭賞

- ・ T T R能プロジェクト
T T R能プロジェクト15周年特別公演「定家」の成果
- ・ 七代目笑福亭松喬
「三喬改メ 七代目笑福亭松喬襲名披露公演」の舞台成果
- ・ 井上道義指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団
大阪フィルハーモニー交響楽団第505回定期演奏会における
演奏及びバンスティン「ミサ」の舞台成果

大阪文化祭奨励賞

- ・ 豊竹芳穂太夫
文楽若手会公演『菅原伝授手習鑑』の「寺子屋の段」などの成果
- ・ i a k u
「肅々と運針」「ハイツブリが飛ぶのを」の舞台成果
- ・ 玉造小劇店
本格的な小型時代劇「わ芝居～その巻『カラサワギ』」の舞台成果
- ・ 周防亮介
東京オペラシティリサイタルシリーズ B→C
(ビートゥーシー | バッハからコンテンポラリーへ)
周防亮介ヴァイオリンリサイタルの成果
- ・ 野間景
野間バレエ団第25回定期公演「ドン・キホーテ」改訂振付の成果

※副賞賞金として、大阪文化祭賞20万円、大阪文化祭奨励賞5万円がそれぞれ贈られます。

※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。

3. ご参考

1) 大阪文化祭賞とは

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストが、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、公演を審査し、大阪文化祭賞、大阪文化祭奨励賞を選考します。

《各受賞者の受賞理由・略歴》

大阪文化祭賞 3件

T T R能プロジェクト

T T R能プロジェクト15周年特別公演「定家」の成果

(ていーていーあーるのうぶろじえくと/ていーていーあーるのうぶろじえくとじゅうごしゅうねんとくべつこうえん「ていか」のせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

関西を本拠に活動する大鼓方大倉流・山本哲也と小鼓方幸流・成田達志の2人が、平成14年に結成した能ユニット「T T R能プロジェクト」が15周年を記念し、満を持して上演した能「定家」は、人間の業や複雑さを格調高く描き上げ、深い感動を与えた。屈指の難曲として知られる「定家」は、ドラマは地下に埋もれ、決してわかりやすい曲ではない。それだけ演者の技量や解釈が問われるが、本公演は、シテを勤めた観世流の人間国宝、大槻文藏をはじめ出演者全員の次元の高い演技、演奏で、緊張感に満ちた劇空間を作り上げた。そもそも能の公演は、シテ方が主宰するものがほとんどだが、「T T R能プロジェクト」は囃子方が主宰する珍しい公演。本公演は、自分たちが本当に見たい能を目指して活動してきた成果の集大成であり、観客も一緒に成長してきた証といえる。囃子方としての技量はもちろんだが、能公演のプロデュース力という観点からも、改めて称えたい。



【略歴】平成14年結成。小鼓方幸流・成田達志と大鼓方大倉流・山本哲也の「能」プロデュースユニット。年に2回行われている「T T R能プロジェクト舞台公演」は、門閥や所属地域を超えた実力主義による妥協のない配役が行われ、また若手能楽師の登竜門ともなっており、関西のみならず東西にわたり注目を集めている。活動は舞台だけにおさまらず、様々な場でワークショップや講座を開催、また講師をつとめ、新しい能楽ファンの創出に積極的に取り組んでいる。成田達志は、平成28年に「芸術選奨新人賞」を受賞。山本哲也は、平成14年に「大阪市咲くやこの花賞」を受賞。平成29年度は、T T R能プロジェクト15周年特別公演として8月に「定家（シテ：大槻文藏）」、今年2月に「隅田川（シテ：友枝昭世）」を上演。

七代目笑福亭松喬

「三喬改メ 七代目笑福亭松喬襲名披露公演」の舞台成果

(しちだいめしょうふくていしよきょう/「さんきょうあらため しちだいめしょうふくていしよきょうしゅうめいひろうこうえん」のぶたいせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

卓越した巧さで、早くから上方落語の次代を担う一人と目されてきた笑福亭三喬が、亡くなった師匠の名を継いで「七代目笑福亭松喬」を襲名し、披露公演を行った。先代は名人と謳われた古典の本格派だったが、新松喬はわかりやすい古典落語を心がけて工夫を凝らし、柔軟自在に演じる実力派。襲名披露公演の昼の部では松喬が中学生の頃に聴き、落語家になるきっかけとなった「初天神」を口演。笑いの中に父子の情愛をにじませ、テンポいい運びで初天神の情景を見事に活写した。夜の部は「笑福亭」のお家芸とされる「三十石」。鳴り物をふんだんに入れ、京都から大坂に向かう船旅をゆったりと味わい深く演じ上げて、実力と貫禄を見せた。公演には東京の柳家さん喬や柳亭市馬、上方の桂福團治、桂ざこば、桂文枝、桂南光、笑福亭鶴瓶ら一門を超えた顔ぶれが並んで門出を祝い、観客からは終始温かい声援や拍手が送られていた。多くの人の祝福と期待に十分に応え、さらなる飛躍への強い意気込みを示した高座を評価したい。



【略歴】兵庫県西宮市出身。昭和58年4月、六代目笑福亭松喬(当時は鶴三)に入門。平成29年10月七代目松喬を襲名。現在、公益社団法人上方落語協会理事(平成26年就任)。受賞歴/昭和63年ABC落語新人コンクール最優秀新人賞、平成17年文化庁芸術祭優秀賞及び上方お笑い大賞最優秀技能賞、平成19年第1回繁昌亭大賞。主な出演落語会/「松喬三昧」(大阪)、「笑福亭松喬独演会」(東京)、「笑福亭松喬独演会」(兵庫)

井上道義指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団

大阪フィルハーモニー交響楽団第505回定期演奏会における 演奏及びバーンスタイン「ミサ」の舞台成果

(いのうえみちよしき おおさかふいはーもにーこうきょうがくだん/おおさかふいはーもにーこうきょうがくだん
だいごひゃくごかいいていきえんそうかいにおけるえんそうおよびばーんすたいん「みさ」のぶたいせい
か)

(第3部門：洋舞・洋楽)

井上道義が指揮する大阪フィルハーモニー交響楽団は、対照的な2つの公演で極めて高い成果を収めた。大阪フィルの第505回定期演奏会(2月17日と18日・フェスティバルホール)は、井上道義が首席指揮者任中に務めた最後の定期演奏会。ショスタコーヴィチの交響曲の中でも、問題作とされる《第11番「1905年」》と《第12番「1917年」》が一挙に取り上げられた。演奏は極めて充実したもので、緊張感にあふれ、壮絶な響きの応酬に打ちのめされた。また、「第55回大阪国際フェスティバル2017」の公演として開催された《バーンスタインシアターピース「ミサ」》(7月14日と15日・フェスティバルホール)は、井上道義が指揮だけでなく、演出と字幕訳を手がけ、総監督として全精力を注いで制作された。作品の不整合性をあえて整えることなく、そのままの形で提示し、バーンスタインが込めた葛藤をストレートに描き出した。



【略歴】

井上道義 (指揮)

ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2015年、全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」(野田秀樹演出)を総監督として指揮。

大阪フィルハーモニー交響楽団

昭和22年「関西交響楽団」という名称で創立、昭和35年改称。創立から平成13年までの55年間、朝比奈隆が常任指揮者・音楽総監督を務めた。平成26年～平成28年シーズンは井上道義を首席指揮者に迎え、「ショスタコーヴィチ/交響曲第4番」「交響曲第7番」「交響曲第11番」のCDを相次いでリリース。関西を中心に全国各地で演奏活動を展開している。

豊竹芳穂太夫

文楽若手会公演『菅原伝授手習鑑』の「寺子屋の段」などの成果

(とよたけよしほだゆう/ぶんらくわかくわてかいこうえん『すがわらでんじゅてならいかがみ』の「てらこやの段」などのせいりか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

「文楽若手会」での『菅原伝授手習鑑』の「寺子屋の段」で、難所とされる前半に全身全霊で取り組み、多彩な人物の語り分けや緊迫した情景描写などで力を存分に発揮した。また、11月文楽公演での『紅葉狩』では、武勇に優れる平維茂を品格高く表現。文楽界の未来を担う有望株の太夫であり、一年を通じて着実な進化を感じさせた。



【略歴】大阪生まれ。演劇に興味を持ち活動を続けるなかで、大阪が発祥である芸能、文楽に出会う。平成15年2月、豊竹嶋太夫に入門。同年9月に初舞台を踏む。受賞歴/平成22年、24年、27年に文楽協会賞、平成23年に国立文楽劇場賞文楽奨励賞、平成25年、26年に十三夜会賞。

i a k u

「凧々と運針」「ハイツブリが飛ぶのを」の舞台成果

(いあく/「しゆくしゆくとうんしん」「はいつぶりがとぶのを」のぶたいせいりか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

劇作家・演出家の横山拓也が主宰するiaku。がんの母を見舞う兄弟と、子を持たないと誓う夫婦の妊娠を軸にした『凧々と運針』。『ハイツブリが飛ぶのを』は火山噴火後の被災地で夫を待つ女性を訪れる男たちとの関係が綴られる。「生」と「死」を問うた趣きの違う2作を綿密な設定と精緻な台詞で丁寧に描いた横山拓也の成長は著しく、今後の更なる飛躍を感じさせる。



【略歴】劇作家・横山拓也による大阪発の演劇ユニット。アンタッチャブルな題材を小気味良い関西弁口語のセリフで描き、他人の議論・口論・口喧嘩を覗き見するような会話劇を発表。繰り返しの上演が望まれる作品づくり、また、大人の鑑賞に耐え得るエンターテインメントとしての作品づくりを意識して活動中。

玉造小劇店

本格的な小型時代劇「わ芝居～その巻『カラサワギ』」の舞台成果

(たまつくりしょうげきてん/ほんかくてきこがたじだいげき「わしばい～そのいち『からさわぎ』」のぶたいせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

和の交流という意味で「わ芝居」と名付けられた本作では、藩命で仇討ちをさせられそうになった若侍を軸に、おかしな騒動が巻き起こる。一つの物語世界を、時代劇と、視点の異なる二つの新作落語に仕立て、双方のファンを存分に楽しませた。大阪らしい「演劇×古典芸能」のセッションの場となるよう、さらなる展開を期待したい。



【略歴】昭和61年劇団設立。同年旗揚げ。平成13年に「(有)中島らも事務所」より演劇部門のみ「玉造小劇店」として独立。演劇製作会社として「リリパットアーミーⅡ」の他、自主公演を企画・制作。観客の心に残る芝居を創り、あらゆる分野から切り開くストーリーで生きる力、夢を与える究極のエンターテインメントを目指す。

周防亮介

東京オペラシティリサイタルシリーズ B→C

(ビートゥーシー | バッハからコンテンポラリーへ)

周防亮介ヴァイオリンリサイタルの成果

(すほうりょうすけ/とうきょうオペラしていりさいたるしりーず (びーとぅーシー | ばっはからこんてんぽらりーへ) すほうりょうすけう" あいおりんりさいたるのせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

バッハの現代における受容を実証する無伴奏ヴァイオリン曲のリサイタルで、シュニトケから、バルトーク、尹伊桑と続き、バッハはソナタ第3番が選ばれ、イザイのソナタ第5番で締められた。献呈された演奏者へのオマージュでもあり、周防亮介の音楽はバッハを現代に受けとめる偉業を技法の粋を尽して表現、その卓越した技量は奨励賞にふさわしい。



【略歴】読響、東響、新日本フィル、京響など国内・海外のオーケストラと多数共演。平成29年ファーストアルバム『Souvenir』をリリース。現在メニューイン国際音楽アカデミーに在籍しマキシム・ヴェンゲロフ氏に師事。受賞歴/出光音楽賞、青山音楽新人賞をはじめ平成28年ヘンリック・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール入賞及び特別賞。

野間景

野間バレエ団第 25 回定期公演「ドン・キホーテ」改訂振付の成果

(のまけい/のまばれえだんだいにじゅうごかいていきこうえん「どん・きほーて」かいていふりつけのせいか)

(第 3 部門：洋舞・洋楽)

ダンサーとして何度も主役を踊った経験を活かし、作品そのものの良さを大切にしながら、オリジナリティ豊かにそれぞれのダンサーの魅力を引き出した。穏やかな優しさをにじませる荒瀬結記子のキトリ、伸び盛りのテクニックが上手く活かした正富黎のバジル、また、恵谷彰のガマーシュで、彼だからこその高い技術を見事にコミカルに活かした振付のセンスは秀逸。振付での益々の活躍にも期待したい。



【略歴】野間バレエ団副団長。野間バレエスクール副学園長。野間康子、ゆうきみほ、牧阿佐美、工藤大貳に師事。昭和 62 年 DAINI KUDO パリ留学オーディション合格により、パリ短期留学。平成 2 年～平成 6 年牧阿佐美バレエ団団員としてすべての公演に出演。平成 15 年フランス・シャルトル・オペラハウス“パリ・オペラ座のソリストたち”に客演。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際は E-mail でお送りいたしますので、下記事務局まで電話または E-mail にてご連絡ください。

■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会 文化事業部 城本

e-mail / shiromotot@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945